

司書会員による図書紹介事業試行ワーキンググループ 報告書

2017.3.17

【目次】

<報告書>

1. 本事業試行の経緯 … 1
2. 図書紹介事業試行 WG 打合せの実施 … 1
3. 試行事業の実施 … 2
4. 試行事業の成果と課題 … 2
5. 事業の効果 … 3
6. 本格実施に向けて … 3

<参考資料> [略]

1. 日本図書館協会図書紹介事業の試行に関する実施要綱 … 4
2. ワーキンググループの任務について（改訂） … 5
3. 図書紹介事業の試行にかかる執筆要領 … 7
4. 図書紹介事業 WG 打合せ記録 … 8
5. 図書紹介事業スケジュール … 21

1. 本事業試行の経緯

日本図書館協会（以下、日図協）では 1949 年より、おもに公立図書館を対象とする図書選定事業を開始し、各図書館が図書を収集する際の参考となる情報を提供してきた。しかし近年、出版情報ツールが増加し、本事業を担ってきた図書選定事業委員会から事業終了の提案があり、2015 年度（2016 年 3 月）をもって事業が終了した。

一方で、日図協が長年、選書の参考情報を図書館現場に提供し活用されてきた経緯、公益法人として図書選定にかかわる情報提供が必要ではないかという問題意識から、同事業終了の検討と並行して、2015 年 10 月に「日本図書館協会における図書紹介事業に関する検討会」が設置され、後継事業の方向性について協議してきた。その結果、2016 年 3 月 18 日に報告書がまとめられ、「新たな視点による図書紹介事業」の検討が必要であるとの提言がなされた。

これを受けて、2016 年度通算第 2 回理事会（2016 年 5 月 27 日）にて「日本図書館協会図書紹介事業に関する実施要綱」が承認され、「司書会員による図書紹介事業試行ワーキンググループ」（以下、WG）が設置された（設置期間：2016 年 5 月 27 日～2017 年 3 月 31 日）。WG は事業実施のプロトタイプを検討し、理事長に報告することとされ、理事長は同報告をもとに本格実施への移行の在り方について理事会に諮ることとなった。

2. 図書紹介事業試行 WG 打合せの実施

「日本図書館協会図書紹介事業の試行に関する実施要綱」に基づく WG のメンバーは下

記のとおりである。

メンバー：秋本 敏（元ふじみ野市立図書館長）、大塚敏高（元神奈川県立図書館部長）、
乙骨敏夫（元埼玉県立熊谷図書館長）＝座長、堀岡秀清（東京都立板橋高等学校）
担当理事：山本宏義（日本図書館協会副理事長）、西野一夫（日本図書館協会専務理事）
WG は下記の 4 回打合せを行い、おおむね下記の事項を協議、決定した。

- ・第 1 回 2016 年 6 月 14 日（火）13 時 30 分～15 時 30 分
- ・第 2 回 2016 年 7 月 13 日（水）18 時 30 分～20 時
- ・第 3 回 2016 年 9 月 23 日（金）18 時 30 分～20 時
- ・第 4 回 2016 年 12 月 19 日（月） 18 時 30 分～20 時
- ・WG 座長と理事長の意見交換 2017 年 1 月 13 日（金） 16 時 30 分～17 時 30 分

3. 試行事業の実施

『図書館雑誌』に「図書館員のおすすめ本」としてページを確保し、2016 年 10 月号から 2017 年 2 月号まで連載し、3 月号には座長による「図書紹介事業の試行を終えて」を掲載した。

試行のコンセプト：公立図書館等の選書等に役立つ、司書による書評

- ・掲載するメディア：当面『図書館雑誌』（1 号 2 ページ、書評 4 本）
- ・対象図書：児童書・文芸書、図書館情報学以外のジャンル（品切れ・絶版は対象外）
- ・対象年齢：高校生以上の一般
- ・字数：800 字程度

おおむね以下の流れで掲載した。

執筆要領を作成 → WG メンバーによる執筆者の人選と執筆依頼（メールで依頼、メンバー同士の意見のやり取り等はメーリングリストで実施）→ 原稿到着と内容検討（修正等があれば執筆者に連絡）→ 原稿完成、図書館雑誌編集部への入稿 → 初校が出たら著者校正を依頼 → 修正を図書館雑誌編集部へ連絡 → 完成 → 執筆者へ送付

4. 試行事業の成果と課題

<成果>

- ・5 か月間で紹介された本の数は 18 冊。分野は、0 類が 1、1 類 1、2 類 2、3 類 2、4 類 5、5 類 2、6 類 1、7 類 1、8 類 2、9 類が 1 である。ほぼ全分野にわたる図書を紹介できた。
- ・執筆者 18 人のうち WG の 3 人を除く 15 人の内訳は、男性 7、女性 8 であった。所属で見ると、県立図書館が 4、市立図書館 6、高校図書館 2、大学図書館 1、その他が 2 となっている。
- ・地域別では、神奈川が 7 人と最も多く、以下、埼玉 4、愛知・大阪・奈良・福島が各 1 となっている。神奈川と埼玉の両県で全体の 7 割を超える結果になった。

<課題>

- ・執筆者の地域的偏りをどう解消するかが課題の 1 つである。本を紹介したいという思いを抱き、その思いを 800 字以内の文章で表現できる図書館員は、全国にたくさんいるはずである。事業の PR や WG の拡大などにより、執筆者の発掘に努める必要がある。

- ・もう1つの課題は、執筆者の条件をどのようにするかである。本事業は、日本図書館協会の「司書会員」による紹介事業としてスタートした。ところが、始めてみると執筆者の中に協会の会員ではない方が何人いることがわかった。試行期間中は意欲的な書き手を一人でも多く確保することを最優先とし、会員であることを必須の条件とはしなかったことによるものであるが、当初の計画とズレが生じた点は否めない。一方で司書以外の会員への拡大を求める声などもあることから、今後、執筆に際しての条件をどのようにするかについて関係者と協議を重ねていきたい。

5. 事業の効果

本事業に関しては、執筆者も含めて、以下のような感想等が寄せられている。

- ・全国の司書が執筆した素晴らしい図書の紹介記事に感嘆した。
- ・『図書館雑誌』が届くと、この記事を先に読むようにしている。自分の知らない本が紹介されていて、たいへん参考になる。
- ・出版社からもこの取組に注目が寄せられており、出版界と図書館をつなぐ事業として、継続を期待する声があった。

6. 本格実施に向けて

4の成果と課題、5の効果について検討した結果、図書紹介事業は本格的に実施すべき事業だと考えられる。そこで、2017年度から本格実施することとしたい。

その具体的な方法は、下記のとおりである。

- ・掲載する媒体は引き続き『図書館雑誌』とする（800字×4本、2ページ）
- ・公立図書館等の選書等に役立つ図書を紹介する
- ・執筆者は日図協会会員とし、個人会員だけでなく施設会員の構成員も歓迎する
- ・執筆者のさらなる拡大を図るため、事業開始後、8月ごろをめどに、執筆要領に添った書評を書いてもらう形で公募を行い、寄せられた書評を委員会が確認したうえ、積極的な掲載に努める
- ・3月の理事会で本委員会の設置が承認されれば、4月に委員会を発足させて、事業実施に入り、早ければ6月号から連載を開始する
- ・WGメンバーの増員（公共2人、学校1人）、公共のうち1人は関東以外から選考、学校の1人は関西から探す